

みかんが香り
笑顔あふれる元気なまち
かつうら



Mayor's Message



発刊にあたって

我が町、勝浦町は、徳島県の東部に位置し、緑豊かな山々に囲まれ、勝浦川が東西に貫流し、春はアメゴ、夏には鮎と、その豊かな清流には川魚が舞い、流れる季節を映し出しております。

昭和30年3月1日に横瀬町と生比奈村が合併し、勝浦町が誕生してから60周年を迎えました。

本町が長い歴史を経て今があるのは、先人が天災を始め、幾多の苦難を乗り越え、力を合わせ築かれたということを忘れてはなりません。

諸先輩方をはじめ、町民の皆様のたゆまぬご努力に対しまして深く敬意と感謝を申し上げます。

今後も、町民が勝浦町に生まれたこと、住んでいることに自信と誇りを持ち、「みかんが香り 笑顔あふれる 元気なまち かつうら」を目指し、町民の皆様と協働してより良い町づくりに邁進してまいりますので、さらなるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

勝浦町長 中田 丑五郎

勝浦町勢要覧

CONTENTS

Mayor's Message

PLOFILE

回帰の旅へ.....4

●祈りの里.....6

●実りの里.....8

●激りの里.....10

コラム 伝統を今に 勝浦座.....12

リフレッシュin勝浦.....14

●川に遊べば、人は、すぐ童心に帰る.....16

●「また来たい」より、「また違いたい」と言ってもらえるように.....18

●歴史をたどる、文化をたどる.....20

●青空のもとでかけてみよう(勝浦イラストマップ).....22

コラム 山村に根づいた俳諧文学.....24

勝浦のあゆみ.....26

美しきふるさとの未来.....30

●産業振興.....32

●教育・文化.....33

●健康・福祉.....34

●社会基盤・環境保全・地域安全.....35

●地域活動・行財政.....36

●議会.....37

P R O F I L E

町民憲章

わたくしたちは、勝浦町民としての誇りをもち、明るく住みよい、さらに未来へ伸びゆくまちづくりを目指して、この町民憲章を定めます。

- 一 郷土を愛し、自然を生かした、美しいまちをつくります。
- 一 お互いを尊重し、助けあい、ぬくもりのあるまちをつくります。
- 一 健やかな心とからだを養い、生きがいのあるまちをつくります。
- 一 生涯を通して学びあい、教養を高め、文化のかおるまちをつくります。
- 一 喜びをもって仕事に励み、力をあわせ、豊かなまちをつくります。

(平成9年1月1日制定)



位置・地勢

勝浦町は徳島市から南西20kmの距離にあって、面積69.83km²、人口約5,600人の美しい風景と緑豊かな自然に恵まれた気候温暖なまちです。古くから阿波みかん栽培発祥(文政年間)の地として知られ、東西に流れる勝浦川兩岸の山腹に広がる栽培地は、徳島県の主要産地として、その名声を内外に博しています。



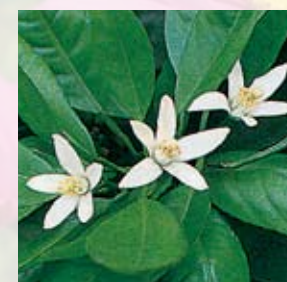
町章

特産みかんと、町の中央を貫流する勝浦川を図案化したもので、横の三本線は勝浦川を表し、真ん中はみかんの若芽、円形全体がみかんを表している。



町花(コスモス)

町村合併30周年を記念して指定されました。「勝浦町の花」については、各家庭で手軽に栽培でき、なじみのある花ということで、秋には勝浦川の河原に広く咲くコスモスが、また「勝浦町の木」には勝浦町を代表するにふさわしい木としてみかんが指定されました。



町木(みかん)

勝浦町 〒771-4395 徳島県勝浦郡勝浦町大字久国字久保田3
TEL 0885-42-2511(代) FAX 0885-42-3028
ホームページ: <http://www.town.katsuura.lg.jp>

回帰の旅へ

帰ろう。人に、自然に、ふるさとに。

森の奥深く、溪谷に面した大銀杏の下に五十三体の石仏が円錐状に安置されている。かつて弘法大師はこの場所で、金剛界曼陀羅の諸仏が現れ光輝くのを見たという。伝説の真偽は別として、石仏たちのやさしげな表情を見ると何だかほっとする。遠いふるさとに帰ってきたような安堵感。そう、またひとつ、私にふるさとができた。



祈りの里

伝説、そして祈り…。 この地に生きた里人の 想いが今も息づく。

勝浦の面白さは自然の中に溶け込んだ様々な祈りの場所があることです。

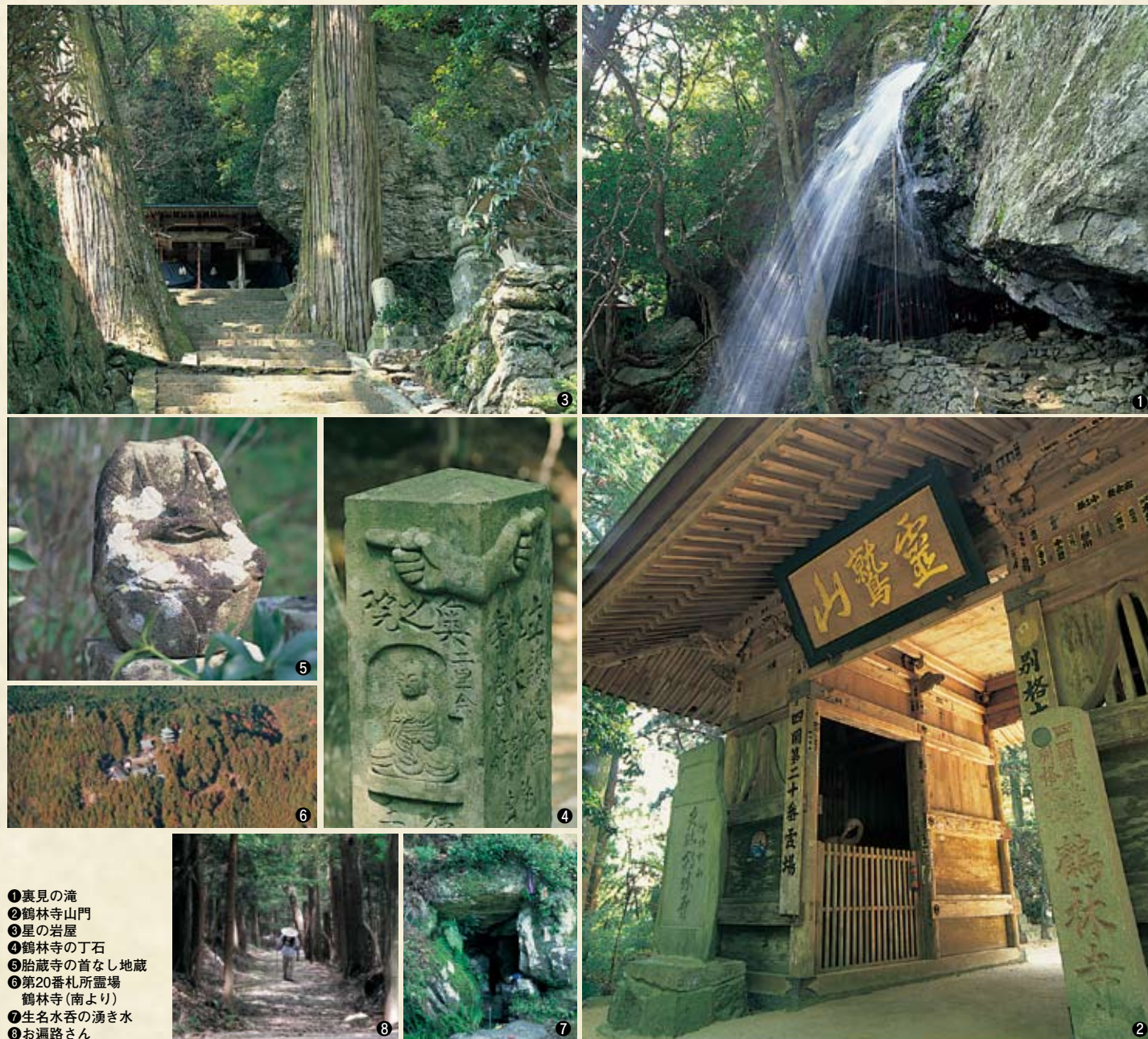
四国霊場第十九番札所立江寺の奥の院は「星の岩屋」と呼ばれています。その昔、悪星が人々に害をなしていたので、この地を訪れていた弘法大師が悪星を岩屋に封じ込めたというのがその地名の由来。その境内には高さ約二十メートル、周囲四メートル、樹齢四百五十年と推定されるクスの巨木があり、中は空洞になっています。不動明王像が彫られています。

また、付近には「裏見の滝」と呼ばれる滝があります。この滝の裏側は空洞になっているので、滝の流れを裏側から見ることで、行者でなくても心清められる感じがします。

四国霊場第二十番札所の鶴林寺は、海拔五百五十メートルにある真言密教の道場であり、かつてその急な参道は、一に焼山（焼山寺）、二にお鶴（鶴林寺）、三に太龍（太龍寺）と言われたほどお遍路さんを嘆かせた難所でした。そんなお遍路さんが少しでも楽に上れるようにと願って参道に配されているのが「丁石」と呼ばれる案内標識です。室町期に数基寄進されたものらしく、お山まで後何丁と上る人を励ますようにたたずむ姿に、昔の人のやさしい心づかいを感じる事ができます。また参道傍らには清水がこんこんと湧きだし枯れたことがないと言われる「生名水呑の湧水」があります。弘法大師が杖で突くと湧き出したという伝説があって、水呑大師が祀られています。

そのほか、森の奥深くに五十三体の「仏石」が静かにたたずんでいた、首の無い地藏があつたりと、様々な祈りの場所に出逢うことができます。

また平成二十二年には、鶴林寺道の水呑大師から鶴林寺までの約一・三キロメートルと、鶴林寺から太龍寺へ向かう町境までの一・四キロメートルが、四国遍路道で初めて国の指定史跡に登録されています。



先人たちが育てた山河は、
この地に生きる我々に
豊かな恵みを与えてくれる。

まいったのは大正末期から昭和期にかけてであり、昭和三十年代には全盛期を迎えました。今日では消費者の変化などから消費量が減る傾向にあり、「高齢化による生産力の低下」「果実品種のバラッキ」「市場競争の激化」など、勝浦みかんを取り巻く状況は大変厳しいものがあります。関係機関と連携を図り、消費者が求める高品質なみかんをつくり、販路拡大や統一段階ボール箱の利用など、勝浦みかんのブランド化を進めることで乗り切ろうとしています。

また、近年では野菜、花きなどの施設園芸に取り組む農家も増加し、複合経営が定着してきています。

町の中央を流れる勝浦川は、剣山系に源を発し、東へ流れて徳島市と小松島市の間を抜け、紀伊水道に注いでいます。その豊かな清流にはアユが舞い、シーズンともなると太公望たちがさおを並べます。

勝浦川沿いに広がった平野は、かつては美味しい米の産地であり、その水質が清らかであることから酒造にも適しており、江戸時代には酒造りで知られた家々も多数存在したほどでした。

勝浦町は阿波みかん発祥の地として知られ、かつて「みかんが光るすばらしい黄金郷」の見出しで新聞で紹介された全国有数のみかん産地です。本格的なみかんづくりが始



①稲刈り
②品質基準調査
③よってネ市売り場
④みかん品評会



実りの里



祭、イベントetc… いろんな新旧とりまぜて おまつり好きの血は激る。

た「おひな様の奥座敷」や「坂本おひな街道」が出現。国の登録有形文化財に登録された「森本家」でのひな飾りも見どころです。さらに、近くの神社で挙式した新郎新婦がひな街道を初歩する「ヒナコン」も行われています。他にも、西岡商店街や勝浦中央商店街の住民の協力により、軒先にひな飾りが出現し、町全体がひな祭り一色となり、訪れる人々に感動を与えています。

ひな人形を通じた交流は、全国に広がり、千葉県勝浦市のビッグひな祭りをはじめ、勝浦から送ったひな人形で同時開催する市町村も増え全国的に大反響を呼んでいます。

町内には、「勝浦さくら祭り」「武者人形まつり」「ホテルまつり」「かつら元氣市」など様々なイベントがあり、町は一年中、活気にあふれています。



①ビッグひな祭り（よあかし）
②ビッグひな祭り（ピラミッド）
③ヒナコン
④さくら祭り



伝統を、今に 阿波人形浄瑠璃 勝浦座

かつて極めて庶民的な楽しみとして全国的隆盛をみた人形浄瑠璃。中でも阿波の人形浄瑠璃は藩主の保護と藍商人たちに支えられ、江戸時代後期には諸国を巡業して回るほどに成長した。最盛期、天保年間の阿波の国には五十を超える人形座と約三百八十か所もの農村舞台があったという。この阿波人形浄瑠璃は、平成11年12月、国の重要無形民俗文化財に指定される。人々に愛されたこの郷土芸能は、この勝浦の地で、今も絶えることなく受け継がれている。

庶民の極めてポピュラーな娯楽であった人形浄瑠璃。

江戸時代より大正期にかけて、全国的に人気を博した人形浄瑠璃。その起源は室町後期に起こった浄瑠璃節が、江戸初期に三味線と提携して、人形芝居を上演するようになって成立したものだと言われています。作者に近松門左衛門、太夫に竹本義太夫などが出て、演劇の様式として確立し、全国に広まってきました。

勝浦町でも江戸時代末期には行われていたようで、特に明治・大正期にかけて盛んでした。当時浄瑠璃を語ることは、町の羽織袴階級の社交的資格であったらしく、

上手も下手も数人集まっては声を競ったということです。また、一般庶民が仕事の片手間に語るのも普通のことでした。それほど階層の別なく人々の心に浸透していたようです。

人形座も江戸時代末期から棚野と久国の二か所に座があつて興業が行われていましたが、いつの頃から棚野の人形座は解散してしまい、久国座だけが残りました。久国座は大宮八幡神社の祭礼に興行するのが常で、青年団が運営を担当していました。隆盛期には一か月も前から青年団や地域の有志が神社の舞台で夜遅くまで練習に励み、祭礼の当日には「式三番叟しきさんばそう」「阿波鳴（あわなる）」



その他の外題を奉納上演しました。観客も地区民総出で、親戚知人も招き、酒食を共にして終日夜を徹して楽しんだということです。

名声高まる久国人形座
しかし不幸な出来事が。

人形の遣い方は、当時一流の人形座であつた「淡路源之丞」を始めとする様々な座から講師を招き、指導を受けています。その結果名手も出て、久国人形座の名も高まってきました。

しかし残念なことに昭和六年久国にあった舞台が全焼し、そこに保管していた人形および諸道具一切を消失してしまいました。その結果再興できないまま、満州事変や太平洋戦争の時代に突入し、人形どころではなくなり、自然的な解散となつてしまいました。

ただ「式三番叟」に使う人形だけはそのままに消失を免れたので、数人によってかろうじて続けられ、昭和二十一年に久国人形座に入っていた十人により再興が図られ、その後「勝浦座」と改められて現在も続いています。

長年の活動が認められ
国立文楽劇場へ招待される

その後勝浦座は毎年県内外の公演を重ね、昭和四十九年九月には町指定無形文化財となり、昭和五十一年十月に東京国立劇場、平成八年三月には大阪国立文楽劇場、平成十四年からは町内にある今山農村舞台で、平成十九年一月にも東京国立劇場で公演し、大阪府能勢町の浄瑠璃と勝浦座の人形のジョイント公演は、平成五年から途切れることなく現在も続いております。またその活動は海外へと広がり、平成元年、四年、九年の三回アメリカへ、平成十五年三月にスイス、平成二十一年五月にはオーストリアへ招かれています。

また、後継者の育成として、昭和三十七年に現在の小松島西高等学校勝浦校に民芸部が創立され、その指導を行うとともに、平成十八年から町内の小・中学生に人形遣いの指導も行っております。



Refresh in Katsuura

リフレッシュ・イン勝浦

どこか遠くへ行ってみたいと思うことがある。

何かに出逢いたいと思うことがある。

美しい自然に触れたい、悠久の歴史に触れたい、人々の暮らしに触れたい、そして誰かに出逢いたい。

そんな気持ちになったら、訪れて欲しいまち、それが我がまち勝浦。

誰もが知らず知らずに溶け込んでしまう、そんな安らぎがあるまちです。

道の駅「ひなの里かつうら」

県道徳島上那賀線沿いに平成23年3月にオープンした、徳島県15番目の「道の駅」。毎年春に行われる町内最大のイベント「ビッグひな祭り」にちなんで名付けられたこの駅は、特産品販売所、観光案内所、また喫茶、飲食スペースを設けた、地域情報の発信・交流拠点です。開発するオリジナル商品の数は、徳島県随一。

ー「ひなの里かつうら」名称の由来ー

勝浦町では、毎年2月下旬から4月上旬まで、約3万体のひな人形を飾る「ビッグひな祭り」を開催しています。今や日本に春を告げるイベントに発展したことから、ひな人形が勝浦の代名詞ともなっています。そんなたくさんのひな人形のように、大勢の人たちがほっこりした笑顔で集う道の駅であってほしいとの、町民の思いが込められています。

よってネ市

ＪＡ東とくしまの経営する県下最大規模の産直市場。町内で採れた新鮮な野菜や果物のほか、手造りの惣菜やお寿司などもたくさん販売されています。土日には1,000名以上のお客様で賑わう、まさしく町の台所です。



Refresh in Katsuura



剣山系に源を発し、町の中央を流れる勝浦川。その水は清流で、鯉、うなぎ、アメゴ、鮎などの魚も多く、昔は川魚漁師さんもいっぱいいたということです。今も鮎釣りのシーズンともなると釣り人たちがどっと押しかけます。

でも、釣りもいいけど何といても勝浦川の良さはその美しさ。春の川辺は鮮やかな黄色のからし菜の花に覆われ、それが秋にはコスモスの白やピンクに彩りを変えます。

川に親しめる「星谷運動公園」も

川に遊べば、人は、

すぐ童心に帰る

川辺に立って、流れの中をのぞいてみる。清らかな水は川底をやさしくゆらし、時折鮎が軽やかに視界を横切る。誘惑に駆られ、ズボンの裾を上げ、靴下を脱いで、水の中に入ってみる。冷たさが肌に心地よい。何とも言えない開放感。やっぱりこれが基本的な川の楽しみ方。清流、勝浦川を眺める楽しさもさることながら、体験できる楽しさもいっぱい。

四季を通じてイベントも盛りだくさん。この川で遊べば、人は、すぐ童心に帰る。

整備され、ちよつとひと休みするには快適な空間になっています。そして川をさかのぼればやがて勝浦川の支流である立川溪谷へ。うっそうと繁る木々の合間を縫って清らかな水が流れ、秋ともなれば、美しい紅葉が目を楽しませてくれます。付近には鳥居ケヤキ、シリア紀紅石灰岩、夫婦淵など見どころもいっぱい。

そんな川のイベントと言えば、何と言っても春の「勝浦さくら祭り」と初夏の「与川内ホタルまつり」です。

「勝浦さくら祭り」は、生名谷川沿いの生名ロマン街道に咲く約四百本の桜にボンボリを吊るし、桜を眺めながらの船下りや人力車、トロツコ、産直市など楽しいイベントが満載です。またライトアップされた夜桜は絶景です。

「与川内ホタルまつり」では、坂本川周辺と与川内沼谷川周辺の約一・五キロメートルに美しいホタルが飛び交い、まつり期間中は、ホタル弁当の販売、その他たこ焼きや焼き鳥、地元の特産品などの売店が並びます。

そのほか、秋には町内各所で花火大会も行われ、勝浦川での楽しみは四季を通じて盛りだくさん。また来てみたい、必ずそんな気持ちになる川です。



①勝浦川
②じんぞく狩り
③鮎のつかみ取り
④徳島県勝浦町観光写真コンクール2013
佳作作品「鮎釣り」 岩佐邦夫

Refresh in Katsuura



「また来たい」より
「また逢いたい」と
言ってもらえるように……

澄みきった空気の中にひっそりと息づく
植物や生き物たち。
あるがままの自然のなかで
ゆったりと流れる時間を楽しむ。
童心に帰りのんびりと野山や川で遊ぶ。
ここでは、山のおじさんや、おばさん達が先生。
もと、遊びの達人たちが楽しい田舎の
暮らしや楽しみを伝授いたします。



山間部の廃校舎を活用し平成十四年三月にオープンした農村体験型宿泊施設「ふれあいの里さかもと」は、地域住民による「坂本グリーンツーリズム運営委員会」が運営にあたっており、地元の人達がインストラクターとなり二十種類以上のメニューで田舎体験を実施しています。

果樹オーナー制度や坂本農楽みかん組などの農業体験。田舎こんにやく作りや田舎豆腐作り、うどん打ちなどの農産物加工体験。地域の自然を生かした山菜採りやタケノコ掘り、じんぞく狩りなどの体験メニューがあります。

田舎体験には、町内外の小中学校や高校からの体験学習をはじめ学童保育からお年寄りのグループまで県外からの方も含め様々な方の参加があり、田舎の暮らしや伝統的な「食」の体験を通じ、それらの素晴らしさを実感していただいています。

また、「ふれあいの里さかもと」の食堂では、訪れた人々を地元の採れた野菜、山菜、果物、川魚など旬の食材を用いて地域のお母さん方が作る田舎料理でもてなしており、素朴な味わいが大変好評です。

都会にはない田舎の暮らしを体験し料理を味わってもらうことにより、それらの素晴らしさを実感してもらい、繰り返し訪れてもらうことにより、交流を促進していきます。

平成二十六年二月には、「坂本グリーンツーリズム運営委員会」が、十年間以上に渡る廃校を拠点とした農村体験などの都市との交流事



- ①あかりの里
- ②坂本集落
- ③田舎こんにやく作り体験
- ④山菜採り体験
- ⑤竹細工体験

業をはじめとした取り組みの、継続性、発展性、また、それらにより地域の自信、活性化につながったことなどを評価していただき「平成二十五年年度地域づくり総務大臣表彰団体表彰」を受賞いたしました。

平成十四年春、ひと粒の種をまきました。私たちがまいた種が、芽を出しつつ成長しはじめています。

太陽の光、酸素、土、豊かな自然の恵みに感動しながら農村体験を通じて、人と人の輪も大きな実りになるように、これからも大事に育てていきたいと思っています。

「山から学ぶ自然の学校」農村体験や農産物加工体験、自然体験などをご用意し、皆様のお越しをお待ちしております。

平成二十六年十二月、同じ坂本地区に勝浦町お試し定住施設「田舎トライアルハウス坂本家」をオープンいたしました。坂本家は、商家を改装した移住希望者のためのシェアハウスです。勝浦町の最奥、坂本地区で人と自然に触れながら、農業をはじめとした田舎体



歴史をたどる

文化をたどる

ふるさと勝浦の発祥については明らかではないが、先祖が暮らしてきた文化の証は、まちのいたる所に残っている。山深い里であったからこそ花開いた信仰の文化である。そして今でも勝浦のまちは、四国八十八か所屈指の巨さつである鶴林寺を始めとする数々の信仰の場所が点在する里として多くの参拝者を集めている。それが白装束のお遍路さんであっても、ジーンズ姿の若者であっても、この地へ来れば、みんな仏の前で謙虚な自分に戻る。

勝浦町地域は阿波歴史の中心地であった国分・島坂・勝端・徳島とは山地によって隔てられている関係上、阿波史の舞台となった史跡は少なく、わずかな史跡があったとしてもその跡もさだかではありません。しかし鶴林寺をはじめ幾多の名さつを擁するだけに、宗教上の霊地として伝承に富み、信仰の里として位置づけられていたことは確かでしょう。特に真言密教の修行の地としては鶴林寺のような人跡絶えたこの境地が法理を体得するにはまことに適地であったのでしよう。山深い里であったればこそ、信仰を持つ人々の心をとらえ、仏教史上数々の貴重な

文化財すなわち仏像・仏画・仏具・仏典および寺院建築を残し得たと思われまふ。徳島県の文化財を論ずる上では勝浦町地域を度外視することはできず、特に鶴林寺は文化財の宝庫と言われています。鶴林寺は霊鷲山宝珠院と号し、四国霊場第二十番札所として知られるここは、雌雄の白鶴が本尊地藏大菩薩の降臨を守護したことから鶴林寺と名づけられたと言われています。参道からの距離を示した丁石や本堂、三重の塔、様々な仏画など数多くの文化財を残していますが、中でも

国指定重要文化財に指定されている寺の本尊である「木造地藏菩薩立像」は温容華麗な面相で、浅い彫りの、しかも衣文の丸みがかつた姿は、藤原期彫刻の面目を具現している名品と言われています。

昔から朝野の信仰を集めており、義経記の屋島の合戦のくだりにその名が出てくるほか、頼朝がある夜鶴林寺の尊像が鎌倉にご来臨あつたことを夢に見、宝物と三千貫の寺領を寄進したという伝承や、伊勢神宮の神官が阿波への渡航中、難破しそうになったのを鶴林寺の尊像に助けられ巨大な手洗鉢を寄進し子々孫々その名に鶴の一字を付けたなど、さまざまな伝承が残っています。

その他星の岩屋や仏石山の伝説など、勝浦町には町のいたるところに、様々ないわれや伝承を残す場所が残っており、数々の寺社に様々な文化財が保存されています。国指定・県指定のものも多く、いずれ指定されるべき価値を蔵するものも少なくありません。信仰の里として先人たちが残してくれた貴重な財産を、次代へ大切に継承することが今の私たちに課された重大な使命であることを感ぜずにはられません。



- ① 地藏菩薩半伽像 (長福寺)
- ② 版木大般若経 (妙音寺)
- ③ 格天井 (妙音寺)
- ④ 絹本着色釈迦三尊画像 (鶴林寺)
- ⑤ 木造地藏菩薩立像 (鶴林寺)
- ⑥ 薬師如来座像 (長福寺)
- ⑦ 鶴林寺本堂



- 1月 成人式
消防出初式
文化祭
- 2月 ビッグひな祭り
- 3月 あめご解禁
芸能大会
- 4月 勝浦さくら祭り
- 6月 与川内ホテルまつり
鮎漁解禁
- 7月 鮎網漁解禁
- 9月 防災訓練
- 10月 みかん狩り
健康福祉まつり
- 11月 かつうら元気市



勝浦町は四方をなだらかな山々に囲まれた緑豊かな山里です。

この豊かな自然の中に、全国的にも数少ない複雑な地層と、日本の基盤とも言われる古い岩石、珍しい植物などの自然と、信仰にまつわる貴重な文化財が数多く残されています。

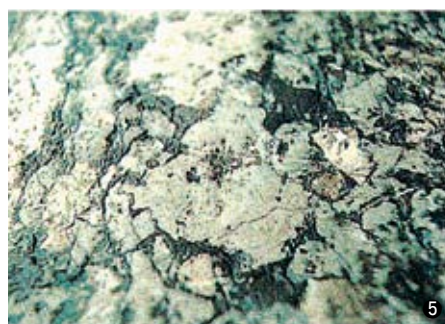
心をちよつと休めたくなったら、寄つてみてください。

素朴なものしかないけれど、

きつと心にしみる何かを発見できると思います。

Refresh in Katsuura

青空のもと
出かけてみよう。



- ①鳥居ケヤキ
- ②西岡彼岸桜
- ③恐竜の里
- ④立川溪谷
- ⑤立川のシルリア紀石灰岩





勝浦の地は昔から生活に即した短詩形の文学、すなわち短歌、俳句、川柳などが盛んで、そのための結社さえ存在する。古くから神社の掲額に俳句、川柳など、地域住民の自作を並べて奉納する習慣があり、句碑などを建立して俳聖・歌聖を偲んでいることから、この郷土にそれら文化を育む土壌があることが分かる。文芸は生活の中から生まれる。そして今でも生活の臭いのする佳句秀歌が、多くの一般の人々によって、生み出されている。

今でも県の芸術祭で多くの受賞者を出す俳句のまち勝浦。

勝浦町は昔から俳句愛好者が多く、徳島県の芸術祭文芸部門などで最優秀賞・優秀賞などを獲得する人も多くいます。趣味的教養としての俳句がこの地に根づいたのは江戸時代末期と思われませんが、そのまま一部の人々に継承され、明治期以後教育が普及するにつれて、愛好者も増加しました。勝浦町は横瀬町と生比奈村が合併してできた町ですが、その横瀬町の俳句界で主導的役割を果たしたのが五柳斎緑雨を中心とする俳句結社「柳林社」です。緑雨の代表作は「かすみたる外れを風の光か

旧生比奈村が輩出した優れた人材たち。

それに比して生比奈村では「桂川社」と「愛文社」の活動が目立ちます。桂川社は明治の末期、沼江に発祥した俳句同人の結社で、藤本春

山村に根づいた俳諧文学

型どりで終り
生比奈の夕立かな

梅が主幹となったときひとつの隆盛期を築きました。春梅は十六歳で上京し、伯父の世話になりながら正岡子規に師事すること八年、家業を継ぐために帰郷後、幸喜園春梅と号し、後輩の指導につとめました。その名声は高く、後年徳島県俳壇の巨星と称えられるに至っています。代表作は「型だけで終わる生比奈の夕立かな」。

愛文社は江戸時代末期から明治

初期にかけて芭蕉の俳道に長じた倉橋輝岳を起源とし、昭和三年には月刊「愛文」という俳誌を刊行するほどに成長しました。輝岳の句碑は生比奈村の様々な場所に見受けられます。

このように生比奈村では藤本春梅の主宰する桂川社、倉橋輝岳が種を蒔いた愛文社は、共に後継者に人を得て、大きく成長し、生比奈村の俳壇は、徳島県でも第一流の地位に立ちました。この点横瀬町の俳句界が泡沫のごとく生まれては消え、消えては生まれた偶発的なものであったのとは大いに異なります。優れた指導者の下に後継者を排出せしめ、あるいは指導者が長命して熱心に指導した結果がこの差になったと言えるでしょう。生比奈村内に俳聖芭蕉の追悼碑が三基も建立されていることから、この村でいかに俳句が盛んだったかが偲ばれます。昭和四十三年にはこれらの結社が大同団結して「勝浦俳壇」を結成し、現在も、即吟会その他の行事を大々的に催しています。



勝浦のあゆみ

生きること、それはいつの時代も大変なことも知れない。
だが、このまちで生きるために、このまちを少しでも良くするために
歯を食いしばって頑張ってくれた先人たちの足跡を知るために、
今の我々がいかに恵まれているかを思い知ることがある。
ただ、感謝しなければ、という、謙虚な想いが脳裏をよぎると同時に、
この素晴らしいまちを守っていかなければ、という、新たな決意がみなぎってくる。



S30年頃 横瀬地区



S29年頃 旧横瀬郵便局、旧阿波商業銀行



S28年頃 横瀬橋補修工事



S28年頃 温州みかん薫浄作業

昭和三十年

- 横瀬町・生比奈村の合併により勝浦町誕生
- 初代町長に朝桐猪平氏当選●第一回町議会議員選挙執行（定数二十六人）●坂本幼稚園開設●横瀬保育所開設

昭和三十一年

- 地方財政再建団体の指定を受ける●横瀬・生比奈商工会が合併し勝浦町商工会誕生●沼江保育所開設●勝浦広報創刊号発行

昭和三十二年

- 横瀬・生比奈消防団を改組し勝浦町消防団とする（団員数四百六十六人）

昭和三十三年

- 第一回町民体育祭開催

昭和三十四年

- 二代目町長に中田森蔵氏当選●坂本川付け替え事業完了●勝浦町役場仮庁舎完成●勝浦町生比奈支所廃止●第二回町議会議員選挙執行（定数二十人）●勝浦町社会福祉協議会設立（昭和四十二年四月一日社会福祉法人となる）

昭和三十五年

- 横瀬・生比奈森林組合が合併し勝浦町森林組合誕生

昭和三十七年

- 社会体育館完成

昭和三十八年

- 中田森蔵氏二期目町長に当選●第三回町議会議員選挙執行（定数二十人）

昭和三十九年

- 県立勝浦園芸高等学校開校

昭和四十年

- 学校給食センター完成、学校完全給食開始●横瀬・生比奈中学校を統合し、勝浦中学校とする●町村合併十周年記念式を挙げる

昭和四十一年

- 地方財政再建完了●坂本・与川内・横瀬農業協同組合が合併し勝浦町農業協同組合誕生●保健衛生優良団体として自治大臣表彰を受ける

昭和四十二年

- 公平委員会事務を県人事委員会に委託●中田森蔵氏三期目町長に当選●第四回町議会議員選挙執行（定数二十人）

昭和四十三年

- 消防団組織改革（団員数二百十二人）●大雪により果樹・農作物の被害甚大●勝浦中学校校舎完成、東・西校舎廃止●横瀬小学校立川分校を廃止●勝浦中学校東校舎跡へ生比奈小学校移転

昭和四十四年

- 勝浦会館完成、川北保育所廃止●消防団組織改革（団員数二百四十人）消防機動隊を設置

昭和四十五年

- 勝浦町役場新庁舎完成●阿波勝浦電報電話局開局●住民福祉センター完成

昭和四十六年

- 横瀬・生比奈の戦没者慰霊碑を合し、役場敷地内に忠魂殿を設置●三代目町長に堺福一氏当選●第五回町議会議員選挙執行（定数十八人）

昭和四十七年

- 農業センター完成●小松島勝浦地区隔離病舎組合設立●名誉町民朝桐猪平氏死去、町葬執行

昭和四十九年

- 一万トンジュース工場完成

昭和五十年

- 町村合併二十周年記念式を挙げる●堺福一氏二期目町長に当選●第六回町議会議員選挙執行（定数十八人）



S42年頃 横瀬中学校



S47年頃 勝浦川南岸生名付近



S53.6.9 生名バイパス



S26年頃 横瀬橋仮



S38年頃 人形浄瑠璃 勝浦人形座

昭和五十一年

- 横瀬小学校改築完成●ごみ焼却場完成●横瀬老人憩いの家完成

昭和五十二年

- 小松島市ほか三町村衛生組合し尿処理場「しらさぎ浄園」完成●県営正木ダム完成●県営勝浦発電所完成●堺福一氏健康すぐれず町長辞職

昭和五十三年

- 四代目町長に桜木義夫氏当選●県道徳島上那賀線生名バイパス供用開始●沼江保育所改築完成

昭和五十四年

- 第七回町議会議員選挙執行（定数十八人）●坂本小学校改築完成（坂本幼稚園併設）

昭和五十六年

- 異常低温（最低マイナス十二℃）が続き果樹（かんきつ類）の被害甚大●勝浦中央橋完成●勝浦病院移転改築完成

昭和五十七年

- 救急患者輸送を業者委託により業務開始●桜木義夫氏二期目町長に当選●町議会議員補欠選挙執行●教育集会所完成●農村婦人の家完成●県道徳島上那賀線三溪バイパス開通●市の江中央橋完成

昭和五十八年

- 勝浦町農村勤労福祉センター完成●第八回町議会議員選挙執行（定数十八人）

昭和五十九年

- 長者が原高冷地野菜団地完成●生比奈小学校改築完成●勝浦貯蔵みかんの愛称「味出番」に決定

昭和六十年

- 第一回あゆまつり●県営婆羅尾林道完成●町の花「コスモス」・町の木「みかん」決定

昭和六十一年

●掛谷集会所完成●東部広域農道着工●横瀬集会所完成

昭和六十二年

●坂本旭住宅完成●第九回町議会議員選挙執行（定数十六人）

昭和六十三年

●県営かん排施設通水●坂本小学校プール落成

平成元年

●石原集会所完成●勝浦町新総合振興計画策定●中山住宅完成●ふるさと創生事業「勝浦川を町の宝に」●前川キャンプ場完成●勝浦町婦人会全国花いっぱいコンクール厚生大臣賞受賞

平成二年

●久国集会所完成●過疎地域に指定●勝浦町立図書館オープン●勝浦町婦人会全国花いっぱいコンクール内閣総理大臣賞受賞●勝浦町農村環境改善センターオープン●坂本バイパス開通

平成三年

●生比奈小学校体育館完成●第十回町議会議員選挙執行（定数十六人）●石原住宅完成●沼江バイパス起工

平成四年

●特別養護老人ホーム喜楽苑オープン●今山公衆トイレ完成●デイサービスセンターオープン●中山集会所完成●第一回みかん祭り

平成五年

●今山ふれあい交流館落成●徳島医療福祉専門学校開校●沼江コミュニティセンター落成●南岸農免道着工●星谷運動公園完成●勝浦町クリーンセンター完成●第四十八回国民体育大会（東四国国体）ライフル射撃競技・デモスボ行事（家庭婦人バレーボール）

平成十三年

●沼江保育所休園 生比奈保育所へ統合●第四十七回全国かんきつ大会開催地

平成十四年

●川口幸一氏三期目町長に当選●ふれあいの里さかもとオープン●勝浦川・那賀川流域間一市四町合併協議会発足●新今山橋開通

平成十五年

●徳島医療福祉専門学校体育館落成●勝浦川・那賀川流域間一市四町合併協議会解散●第十三回町議会選挙（定数十二人）●子育て支援センター開設●地域共同作業所「サルビア作業所」開設●全国勝浦ネットワーク友好都市盟約締結

平成十六年

●今山堰改修工事完成●小松島市・勝浦町合併任意協議会設立

平成十七年

●小松島市・勝浦町合併協議会設立●人形文芸交流館オープン●勝浦町制五十周年記念式典挙行●県営基幹推理施設ろ過池洗浄施設完成●小松島市・勝浦町合併協議会解散

平成十八年

●六代目町長に中田丑五郎氏就任●デジタル防災無線事業完成●情報通信基盤整備事業完成●地域包括支援センター開設

平成十九年

●ごみ焼却を小松島市に業務委託●第十四回町議会選挙（定数十人）●第一回全町一斉防災訓練●第二十二回国民文化祭開催（人形フェスティバル in 勝浦）●優良施策団体として総務大臣表彰を受ける

平成二十年

●地域ICT未来フェスタ二〇〇八 in とくしま開催（サテライト会場）●自主防災組織率一〇〇％達成



H19.10.27 第22回国民文化祭開催



H14.3.3 ふれあいの里さかもとオープン



H14.5.13 新今山橋開通



H2.12.2 坂本バイパス開通



H2.12.1 勝浦町農村環境改善センターオープン



S56.3.25 勝浦病院移転改築完成



H25.3.1 勝浦中学校新校舎落成



H24.3.11 沼江バイパス第二工区開通



H23.3.12 道の駅「ひなの里かつうら」開駅



H5.5.20 石原住宅完成



H4.4.1 特別養護老人ホーム喜楽苑オープン

平成六年

●五代目町長に川口幸一氏就任●横瀬保育所落成●県立勝浦園芸高等学校が県立勝浦高等学校に校名変更●勝浦町から恐竜の化石が見つかる（四国初）●県道新浜勝浦線中山バイパス完成●近畿勝浦ふるさと会発足

平成七年

●勝浦町合併四十周年記念式典挙行●勝浦町堆肥施設竣工●林道立川相生線工事初年度●第十一回町議会議員選挙（定数十六人）●JAよってネ市開業

平成八年

●県道阿南勝浦線沼江バイパス一期工事開通●新神谷住宅完成●勝浦町畜産団地完工●横瀬集排水処理施設稼動●町社協にシルバ人材センター開設●福祉センターにエレベータ設置●立川に山火発生

平成九年

●勝浦町民憲章制定●町学校給食センター改築完成●県道鶴林寺線供用開始●関東阿波かつうら会設立

平成十年

●川口幸一氏二期目町長に当選●生比奈保育所改築完成●県営畑地帯総合土地改良事業完了●星谷農免農道竣工●新横瀬橋完成●勝浦フライットパークオープン

平成十一年

●横瀬せせらぎ橋開通●坂本小学校・坂本幼稚園閉校●坂本小学校が横瀬小学校に統合●第十二回町議会選挙（定数十四人）

平成十二年

●学童クラブ発足●生きがいデイサービスセンター「みかんの郷」開設●小松島市外三町村衛生組合新し尿処理場「しらさぎ浄園」完成●グループホーム「あゆの里」オープン

平成二十一年

●勝浦病院 病院機能評価認定証取得●総合型地域スポーツクラブ「K・Friends」設立

平成二十二年

●中田丑五郎氏二期目町長に当選●保育所が民間移管され勝浦こすもす保育園、勝浦みかん保育園が誕生●よってネ市リニューアルオープン●生名遍路道国指定史跡登録

平成二十三年

●勝浦町総合計画策定●道の駅「ひなの里かつうら」開駅●定住自立圏形成協定を締結●棚野久国簡易水道浄水施設完成●第十五回町議会選挙（定数十人）●勝浦貯蔵みかん専用統一箱ボール箱完成

平成二十四年

●横瀬小学校耐震補強工事完成●沼江バイパス第二工区開通●県立勝浦高等学校が県立小松島西高等学校勝浦校に再編

平成二十五年

●勝浦中学校新校舎落成●民間賃貸住宅建設費助成制度開始●木材利用優良施設として勝浦中学校が林野庁長官賞を受賞●勝浦中学校が二〇一三年度グッドデザイン賞を受賞●勝浦町クリーンセンター解体撤去

平成二十六年

●中田丑五郎氏三期目町長に当選●沼江・掛谷簡易水道沼江地区配水池改築完成●消防救急デジタル無線事業完成●広域連携コンサート「みかんの香るまちの音楽会」開催●若者定住促進賃貸住宅完成

平成二十七年

●坂本地区森本家住宅が国の登録有形文化財に登録●川北簡易水道施設今山地区完成



美しきふるさとの未来

みかんが香り 笑顔あふれる
元気なまち かつうら

「みかんが香り」とは、町の基幹産業であり、町民の愛着も深い「みかん」の爽やかな香りが町中に流れるまち、豊かな自然と共生するふるさとを表しています。

「笑顔あふれる」とは、町に脈々と受け継がれている思いやりとふれあいを継承する、これからの時代も大切にする町民の心のありようを表しています。

「元気なまち」とは、学ぶこと、遊ぶこと、働くこと、生きること、すべてにおいて常に前向きな気持ちとともに、自分たちのまちを自分たちの手で創っていかうという町民の持つ気概、意気込みを表しています。



〈今後の目標〉
本町では、「人づくりがまちづくりの基本」と考えています。次代を担う子どもたちに確かな学力、体力、郷土を愛する豊かな心を育成するため、指導体制の充実、郷土資源の活用、家庭・学校・地域の連携強化を図り、教育環境の向上を目指します。さらに、一人ひとりの活動意欲を高める学習環境の向上、伝統文化の継承、K-Friendsなどを中心とし

〈課題〉
児童生徒が減少する中で、少人数学級において確かな学力を身につける、一人ひとりを大切にする教育が必要です。社会性やコミュニケーションの向上が必要です。伝統文化を地域住民に浸透させ、後継者を育成することが必要です。子供から高齢者まで、地域住民が学ぶことのできる生涯学習の充実が必要です。健康づくりと連携した生涯スポーツの振興が必要です。

〈今後の動向予想〉
少子化に伴い、児童生徒数の減少、伝統文化の後継者の減少などが予想されます。高齢化に伴い、文化やスポーツなどの人口が減少し、自主的な学習活動や意欲の低下が懸念されます。

教育・文化

①勝浦中学校新校舎教室
②みかんの香るまちの音楽会
③K-Friends
④図書館見学

【重点プロジェクト】
一人ひとりを大切にする教育の充実、教育環境の充実、伝統文化の後継者育成

たスポーツや文化における世代間交流の活性化を目指します。すべての町民が郷土に誇りを持ち、あらゆる分野で町民一人ひとりがその個性と能力を発揮できる社会の形成を目指します。



〈今後の目標〉
地域産業の活性化は、活力ある社会の創造、暮らしの安定、定住促進に直結する、まちづくりの「鍵」となります。農作物のブランド化や販路拡大、担い手の育成に積極的に取り組む必要があります。

〈課題〉
農作業の省力化、担い手の育成が必要です。農林業にかかる基盤整備のほか、労働の軽減対策、森林の多様な活用（体験、交流、健康、鳥獣害対策、温暖化防止等）の研究が必要です。商工業と農林業等、産業間の連携や地域活動の活用（ビッグひな祭り、景観形成、浄瑠璃等）が必要です。

〈今後の動向予想〉
生産年齢人口減少による農業就業者の減少、耕作放棄地の増加が進みます。林業も同様に森林放置が一段と増加します。人口減少に伴い、地域内の購買力の低下と商業従事者の減少が進みます。低炭素社会の実現に向けての動き（森林の二酸化炭素吸収機能の活用、再生可能エネルギーの技術開発等）が拡大します。

産業振興

①道の駅情報館内
②軽トラ市
③ちょぞっ娘
④日本橋まけまけいっぱいフェア

【重点プロジェクト】
勝浦独自の生産・流通体制の構築
広域経済圏の確立（産業間・行政連携）
り組むとともに、農業・商業の活性化、新たな生産・流通体制の構築、「道の駅」を拠点とする町内外への情報発信を推進します。また、産業間連携・行政の連携により雇用拡大も含めた広域経済圏の確立を目指します。すべての事業者の英知を結集し、自然環境と共生しつつ、町民が実感できる持続的で活力ある地域産業の振興を目指します。



〈今後の動向予想〉

高齢化の進行、後期高齢者の増加に伴い、医療サービスと福祉サービスのニーズが高まっています。高齢者の夫婦世帯とひとり暮らしがさらに増えます。少子化の進行、核家族世帯が増加、母親の就労増加に伴い、子育て支援のニーズが高まっています。人口減少と高齢化により、集落内の相互扶助機能が低下します。

〈課題〉

疾病予防と介護予防に向けて、町民一人ひとりの健康づくり、生活習慣の改善につなげる仕掛け、町民の意識向上が一層重要です。ニーズの高まる医療サービスと福祉サービスの充実、子育て支援の充実が必要。そのための体制強化が必要です。高齢者や障害者自身も参画する地域で支えあう仕組みが必要です。町民の要望が多い救急医療及び医療環境の向上、社会保障制度の円滑な運営が必要です。

〈今後の目標〉

人口減少と少子高齢化する本町において安心して暮らすことのできる環境づくりは、まちづくりの大きな使命となります。医療環境の充実と保健・医療・

〈今後の動向予想〉

社会全体が低炭素社会の実現に向けて本格的に動き出します。計画中の道路整備が進みます。高齢化により、公共交通機関の重要度がさらに高まります。大震災が発生する可能性が高まる。地震予知技術が発達します。

高齢者夫婦世帯、ひとり暮らし世帯、空き家が増え、地域の安全・安心に対する不安が高まる恐れがあります。

〈課題〉

幹線道路網の強化、安全で災害に強い道路改良が必要です。高齢化により需要の高まる公共交通機関の維持・充実が必要です。

定住のまちづくりには、周辺市町よりも特色のある住環境が必要です。資源循環型社会の実現、地球温暖化対策への取り組みが必要です。高齢者夫婦世帯、ひとり暮らし世帯、空き家の増加に対応する防災・減災対策の充実が必要です。

〈今後の目標〉

『農業・交流・定住のまち』としてのまちの魅力を向上するためには、社会基盤・環境保全・地域安全という生活基盤が重要になります。暮らしの快適性の向上とともに

健康・福祉

- ①はぐくみ
- ②子ども子育て会議
- ③愛育班員研修会
- ④生活習慣病予防教室

福祉の連携に加え、他分野（教育・スポーツ・産業等）との連携を図り、町民が心身の健康維持・増進を自ら行う環境づくりを目指します。

高まる医療・福祉・子育て支援へのニーズにこたえるべく、家庭・地域・関係機関と連携し、支援を必要とする人を支える仕組みの充実に取り組みます。

国の社会保障・医療制度改革に対応しつつ、すべての町民が地域の温かさを実感しながら、健康に自分らしく暮らすことのできる地域社会の形成を目指します。

【重点プロジェクト】

町民の健康意識の向上と社会支援の充実
地域で支えあう仕組みの充実

に、定住促進や産業振興につなげるための道路や住宅の供給など、社会基盤を計画的に整備します。また、資源循環型社会の形成と地球温暖化防止対策を進め、環境にやさしい社会を町民とともに形成します。さらに、町民・地域・関係機関・行政が一体となり、災害や事故から町民の生命と財産を守る安全なまちづくりを目指します。

快適な住環境、自然環境との共生、安全な暮らしを兼ね備えた定住環境の実現を目指します。

【重点プロジェクト】

環境にやさしい安全・安心なまちづくりの推進
広域交流の活性化を支える基盤整備

社会基盤・環境保全・地域安全

- ①砂防堰堤（生名）
- ②若者定住促進賃貸住宅
- ③消防救急デジタル無線
- ④高規格救急自動車



①

勝浦町議会では、二〇一一年から議会改革について、検討を進めてきました。そのきっかけは十人まで減少させた議員定数です。これまで、所管課に対応した常任委員会を二つ置いてきましたが、各委員会の定数は五人でしたが、賛否は二対二となり、委員長裁決が行われることも少なくありませんでした。結局十人で分担しても、ということから、所属以外の議員も委員外議員として全員出席することが常態化し、これなら最初から本会議で全部やってしまったらどうか、となった訳です。

議員全員で議論したい。しかし本会議では議論ができない。委員会と同じ自由な議論を行いたい。法的な問題を解決し、少ない議員定数で充実した議論を行うためにと考えられたのが、通年の会期制（通称マラソン議会）の導入と本会議への回帰です。

まず、通年の会期制を導入すること、一年中いつでも会期となります。会期外という日はなくなります。第一読会では、議案の提案、説明、基本的な質疑が行われ、第二読会では、逐条審査や参考人招致、議長も含めて自由に発言できる「自由討議」制度を導入し、第三読会において、条文の整理確定、総括の質疑、討論、採決を行います。

本会議をどのように運用するかは、議会がそれぞれの会議規

議会

①議会

則や運用で自由に決めることができるのです。そもそも会議規則のために会議をしているわけではありません。人数にあわせて会議の仕方を効果的にするわけです。

二〇一三年七月十日からマラソン議会がスタートいたしました。今後も議会改革を進め、議会の活性化、町の発展へとつなげてまいります。



③



④



①



②

〈今後の動向予想〉
交流活動や地域活動を支えてきた団体の世代交代が始まります。

基礎自治体のあり方の見直し議論が本格化します。

住民・行政の主体性・自律性が一層重要になります。

生産年齢人口の減少と高齢化の進行に伴う就業者数の減少により、所得税、法人税などが減少します。

様々な分野での税制改革、制度改革が行われる可能性があります。

〈課題〉
交流活動や地域活動を継続するための人材育成が必要です。

町民参加の仕組みと町民意向を反映する協働体制の強化が必要です。

財政運営を早期に健全化することが必要です。

公共施設の耐震化が必要です。

業務改善、職員の能力向上による着実な行財政運営が必要です。

〈今後の目標〉
適切な行財政運営はまちづくりの基本です。

少子高齢化の進行、地方自治制度の見直し、地方交付税の減少が予想されるこれからの時代の中、あらゆる分野で町民の主体的な活動を促進し、町民主役

地域活動・行財政

①与川内ホタルまつり
②広報紙
③定住自立圏構想
④横瀬小学校校舎耐震化

のまちづくりを目指します。

行財政運営は、常に、町民の目線に立ち、町民・地域・関係機関・行政がそれぞれの役割と責任を担いつつ、町民と行政との協働によるまちづくりを原則とするニュー・パブリック・マネジメントの考え方に基づく協働のまちづくりの実現を目指します。

【重点プロジェクト】
地域活動と協働のまちづくりの推進
行財政改革の推進